

# 「格闘技ブーム」とキックボクシング競技人口の関係について

大石 享 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 黒須 朱莉

キーワード：格闘技ブーム，キックボクシング，競技人口，K-1，PRIDE

## 1. 緒言

「格闘技ブーム」とは、1993年からはじまり、1996年から2010年までテレビ中継があったキックボクシングのK-1や、総合格闘技団体のPRIDEなどのことをいう。このブームの象徴であったテレビ中継が打ち切られ、テレビで試合を目にすることがなくなったのは2010年である。では、この「格闘技ブーム」と呼ばれた2010年までの現象は、主にキックボクシングにどのような影響を与えたのだろうか。格闘技ブームをテーマにした研究に、古澤・小野寺(2002)のものがある。古澤らは、2002年時点の格闘技ブームは「観客としてのブーム」であると述べているが、実際の格闘技の競技人口への影響まではふみ込んでいない。よって、本研究は、「格闘技ブーム」とキックボクシングの競技人口の増減の関係を明らかにすることを目的とした。そのために、「格闘技ブーム」の時期にあたる2008年以降と、「格闘技ブーム」が終わったとされる2010年から2015年までを調査対象とし、キックボクシングの試合数と団体数の変化からキックボクシングの競技人口の増減を検討することを課題とした。

## 2. 研究方法

「格闘技ブーム」を定義するために文献調査を行った。次に、競技人口の増減を明らかにするために、キックボクシングの大きな興行団体3団体KRUSH・TRIBELATE・ストライキングチャレンジの試合数と、キックボクシングの団体数を調査した。

## 3. 結果と考察

第一章では、「格闘技ブーム」を定義するため、スポーツにおける「ブーム」をメディアの影響、人がどれだけ目にするかという点で定義し、K-1とPRIDEに関する現象を検討した。その結果、K-1とPRIDEは「格闘技ブーム」と呼べる現象であったといえる。

第二章では、「格闘技ブーム」とキックボクシングの競技人口の増減を明らかにするために、キックボクシング3団体の試合数を調査した。その結果、ブーム時から終焉をむかえた2010年以降、それらの団体の試合数は増加していることが明らかになった。さらに、2009年以降キックボクシングの新しい団体も発足していることも明らかになった。

## 4. まとめ

本研究は、「格闘技ブーム」の影響によってキックボクシングの競技人口が増加した結果、キックボクシング団体の試合数や団体数は増加したと考えられると結論付ける。また、本研究における試合数の変化の結果から、2003年から「格闘技ブーム」が終了した2010年までの8年間と終了後の2010年以降、古澤らの「観客としてのブーム」は「自分でしてみたい」という興味に変化していった可能性が高いと考察した。

## 引用・参考文献

古澤照幸・小野寺孝義(2002) 若者の格闘技志向についての研究, 埼玉学園大学紀要「人間科学部篇」, 第2号: 11-19.